

2020年7月13日

電気加工学会
会員各位

会誌編集委員会
委員長 早川伸哉

電気加工学会誌 2020年11月号
特集「電気加工におけるヒヤリ・ハット」への寄稿のお願い

電気加工学会誌では2020年11月号の特集として「電気加工におけるヒヤリ・ハット」を企画し、下記のとおり会員の皆様からの情報提供を募集いたします。

安全衛生の分野ではハインリッヒの法則が知られています。1件の大事故の背景には運よく大事故に至らなかった同種の事故が29件、事故にならなかったヒヤリ・ハット事例が300件あり、そうした多数のヒヤリ・ハット事例を分析して対策を講じることで事故の発生を未然に防止することが大切であるといわれています。また、事故原因の傾向が作業者の経験度合によって異なり、初心者は知識が定着していないこと、少し慣れてきた段階では油断が生じて確認がおろそかになること、ベテランは自分の腕を過信して無理を強行してしまうこと、というパターンがあるといわれています。

産業界や大学、公設試などで毎日多くの加工作業や実験が行われていますが、例えば本企画の担当者（早川）は数年に一度の頻度でさまざまなトラブル（人の怪我、物品の破損など）を経験しています。しかし、そうした情報や教訓は数年もすれば十分に伝承されなくなってしまうのが実情です。

そこで、電気加工学会の会員がこれまでに経験した事故やヒヤリ・ハット事例の情報を共有することで、事故防止や安全意識の啓発に役立てたいというのが今回の企画の趣旨です。放電加工、電解加工、レーザ加工などの実験、加工作業、準備作業などにおいて皆様がこれまでに経験されたヒヤリ・ハット事例を別紙の様式に記入して寄稿して下さるようお願い申し上げます。

記

掲載号：2020年11月号 特集「電気加工におけるヒヤリ・ハット」

原稿締切：2020年9月30日

記事分類：寄書

内容：放電加工、電解加工、レーザ加工などの実験、加工作業、準備作業などにおいて経験したヒヤリ・ハット事例について、発生の状況・経過（どんな実験、作業を行っている中で、どんなことが起きたのか）と当事者としての反省点、改善策を記述してください。

ページ数：制限なし（目安として1件当たり0.5～1ページを想定しています）

原稿料：なし

その他：(1) 記事は無記名とします。

(2) 記事の目的は経験の共有であり、責任の追及ではありません。寄稿された事例に対する追加調査は行わず、読者からの問合せにも応じません。

(3) 学生が情報提供する場合は、必ず指導教員を通して寄稿してください。

投稿先：電気加工学会 会誌編集委員会 早川伸哉（名古屋工業大学）

電子メール：hayakawa.shinya@nitech.ac.jp

以上

特集「電気加工におけるヒヤリ・ハット」 事例記入用紙

分野	放電加工, 電解加工, レーザ加工, その他 ()
所属機関	大学, 公設試, メーカー, ユーザ, その他 ()
経験の程度	初心者, 中級者, ベテラン
【発生の状況・経過】	
【反省点・改善策】	

※枠の大きさは適宜, 変更してください.